

学生大使 実施報告書

氏名: 安食ころ

学部・学科(コース)・学年: 地域教育文化学部児童教育コース 2 年

派遣先大学: ラトビア大学

派遣期間: 2025/2/27~2025/3/13

1 日本語教室での活動内容

今回日本語教室に来てくれた学生は、日本語専攻だけでなく、韓国語や中国語を専攻している学生も来てくれた。そのため、始めの方の授業で日本語がどれほどできるのかを把握した上で、それぞれの学生に合わせて授業をおこなった。日本語がかなり出来る学生には、「会話の練習がしたい」と言われたので、会話を中心に、日本人と同じスピードで話すようにした。また、鯨とクジラの違いは何かというような日本人にとっても難しく、気がつかなかった部分を質問された。予想してない質問をされる時があるので、事前にしっかりと準備していくよりも文化交流やレベルに応じて臨機応変に対応できるようにしていくことが大切だと感じた。日本語は分かるが、話すことが苦手な学生にはできるだけ簡単に短く話すようにした。分かりやすく話すように心がけていても速いと感じたようだったので、自分の言ったことが伝わっているか確認しながら授業する必要があると感じた。また、難しい単語は英語を混ぜて話すようにした。日本語のひらがなが書ける学生とは、絵しりとりをした。カタカナの勉強するために絵しりとりは効果的だと感じた。例えば、radio は日本語で「ラジオ」だが、その学生は「レディオ」と考えていた。

2 日本語教室以外での交流活動

授業が始まるのが夕方と遅かったので、授業前にリガを散策したり、連れて行ってもらったりした。平日はバチューラの人は授業があったので休みの日に一緒に遊びに行くようにした。できるだけ授業を通して関わった色んな人と会うようにした。授業内でラトビアのおすすめの場所やものを話すと連れて行ってほしいと誘いやすくなるのでいいと思う。ラトビア人と日本人の国民性がとても似ているように感じた。そのため、回数の限られた日本語クラスであちらの方からどんどん誘ってくることはよほど日本語が得意でない限り難しいと思う。日本人学生側が積極的に話しかけたり、連れて行ってほしいと言ったりすることで、授業に何度も来てくれるようになり、かつ、日本語を恥ずかしがらずに話してくれるようになると感じ、また、距離も縮まると思った。言葉よりもあなたと話したい、遊びに行きたいという思いや姿勢が伝われば自然と仲良くなっていくと思う。

3 参加目標への達成度と努力した内容

英語を使う機会の多いラトビアで英語を交えて第二言語同士でコミュニケーションをとることとラトビアと日本それぞれの良さを発見することを目指した。モンゴルの学生大使の時よりも英語を使う機会が多く、英語の勉強もできたと感じる。私がラトビアで過ごしてみて何言語も話す人が多いと感じた。ヨーロッパの人にとって近隣の国の言語を話すことは大切なのだと感じた。また、英語を母国語と同じ

【学生大使 実施報告書】

ぐらい流暢に話していたので、英語の必要性を感じたと同時に英語の勉強に力を入れたいと思った。ラトビアで2週間過ごしてみて感じた良さはラトビア人の人柄である。日本人と同じように控えめな人が多いと感じた。話してみて心を開くのに前回行ったモンゴルよりも時間がかかった印象がある。また、ラトビアの歴史を大切にしていると感じた。アール・ヌーヴォーの建物や景観が統一されていて歴史を大切にしていると感じた。また、至る所で典型的な紋様や工芸品、国旗があった。日本と違うと感じたところは物乞いや酔っ払いに話しかけられた時に無視をしないところが印象に残っている。日本では大抵無視をするが、ラトビアの人は話しかけられたら嫌な顔をせず対応していたのが印象的だった。

4 プログラムに参加した感想

私は人生で初めてヨーロッパに行った。現地に行かないと分からないような国民性や文化を知ることができた。モンゴルに行った時同様に知らないことが多いためラトビアに行くことを決めたが、振り返るとラトビアに行って良かったと感じる。行く前はロシアやウクライナが近くにあり、危ないのではないかという印象を持っていたが、近くで戦争が起きていると感じないくらい安全だと思った。街を歩くとよく国旗を見かけるのも日本ではなかなかないので驚いた。また、バルト三国という意識が高いということも感じた。買い物をするとこの商品はどこのものなのかがよく分かるようになっていて、かつ、英語表記が少ないと感じた。エストニアとリトアニアのものが多く、バルト三国と言われている意味がよく分かると思った。日本から遠く離れた場所で日本語を勉強しようとしている学生、また、これまでに学生大使を経験してまた日本語クラスに来て下さる社会人の方々と出会い、授業以外でも一緒にいることができたため、充実した2週間を過ごすことができた。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

前回のモンゴルの学生大使で、教員への気持ちを高めるとともに英語教師に興味を持った。そして、英語を使う環境に置き、英語を学ぶ必要性に触れるために、今回学生大使の中で英語を使う機会が多いラトビアに決めた。そして、今回は学生や社会人の方と交流したり、大使公邸で働く方と話したりすることを通して世界に目を向けている人が多いと感じた。英語の先生という形で世界には様々な文化や価値観のある人がいる面白さを伝えたいと思っていたが、自分自身が広い世界をもっと見てみたいという気持ちが高まった。文化、国籍、価値観が違うからこそ、交流すると面白いということに気付けるのは、ただの旅行でも留学とも違う学生大使だからこそできることだと思う。就職活動や教育実習がこれから始まっていくが、時間のある時にまた学生大使で違う国に行ってみたいと考えている。また、英語の先生以外に海外と交流できる職も調べてみたいと思った。ゼミの活動では、国際理解の分野に自分は興味があると気づくことができたので参考にしていきたいと思う。

6 現地での活動写真

写真1

オペラを見に行った時の写真



写真2

お好み焼きパーティーした時の写真



写真 3

聖ペテロ教会からの景色



写真 4

Flowと自由の記念碑

